

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	28	学校名	静岡県立富士宮北高等学校	校長名	小谷和之
------	----	-----	--------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア	規律・礼節、規範・帰属意識を醸成し、主体的で健全な生活態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「服装・頭髪指導がしっかりしている」「マナーがよい」保護者評価が各90%以上 ・登校指導3日、昼巡視20日を通して挨拶、声掛けの励行 ・交通安全教室4月に実施 ・交通事故10件以内 ・ケイタイマナー教室1回実施、授業、LHR等で生徒自らが情報モラルを考える時間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者評価 95.6%(-1.1%) ・挨拶・声掛けは、目標通り実施できた。 ・交通事故14件(R7,12月現在)。交通安全マナーに対する苦情が多かった。交通安全教室は目標通り実施できた。「交通マナーがよい」軒並み低評価 ・「学校にはいじめやネットによる誹謗中傷がなくてよい」生徒 92.5%(-0.2%) 保護者 84.6%(+0.2%) 教員 84.1%(+0.3%) 	B C A	<p>スカート、化粧への対応</p> <p>挨拶をもっとできるようにしていきたい。</p> <p>交通安全委員会を機能させていく。</p> <p>まだまだ安易な行動がある。ひき続き啓発していく。</p>	生徒
		<ul style="list-style-type: none"> ・「教職員は、悩みなどの相談(いじめ含む)にのってくれる」生徒評価90%以上 ・特別支援が必要な生徒への適切な配慮と支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてケース会議を実施した。外部機関との連携を図り、生徒へ適切な支援を行った。 ・生徒評価 92.1%であり、概ね達成できた。 	A	<p>引き続き、個に応じた適切な支援を継続していきたい。そのために情報収集と情報共有が必要だと考える。</p> <p>引き続き、スクールカウンセラーを中心とした相談体制を整備し、充実した相談活動を行っていく。</p>	保健
		<ul style="list-style-type: none"> ・式典等の行事を通じた校訓・校歌の理解・浸透 ・集会や行事を通じた規範・帰属意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・式典、集会等を通じて、生徒は校訓に対する理解を深めることができた。 ・応援団長の指揮、吹奏楽の演奏で校歌を歌ったが、大きな声を出さない生徒が多い。 ・「生徒会活動は生徒が主体で充実した」生徒 89.4%(1.2%) 保護者 92.2%(+5.3%) 教員 (81.4%(+13.8%)) 	B A	<p>校訓の理解を深める指導を継続的に行う。</p> <p>昼休みに校歌を流すなど工夫した。式典の際にしっかりと声を出して歌えるように、呼びかけを強化したい。</p>	総務

様式第3号

イ	<p>探究的な学習等を通して、自ら学ぶ態度・確かな学力を定着させ、将来社会で活躍できるグローバルリーダーを育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かりやすく学力が付く授業」85%以上 ・「自らの考えを表現できる生徒」50%以上 ・一日平均普通科90分以上、商業科60分以上 ・「家庭学習が習慣化している」70%以上 ・放課後の有効活用(委員会等の会議設定、学習指導、検定対策、部活動等)の実現に向けた教育課程検討委員会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒 92.3% ・保護者 88.4% ・生徒 43.3% ・保護者 44.1% ・普通科 129.2分 ・商業科 88.2分 ・生徒 32.1% ・保護者 32.4% ・教育課程検討委員会5回(1月5日現在)開催。新教育課程の編成 	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>生徒の実態にあわせた授業の展開ができています。授業改善と併せて向上を図りたい。</p> <p>場面の創出に対して、生徒が自分の考えを表現できると感じている生徒が増加している。</p> <p>試験勉強等を通じて家庭学習の時間は確保されている。平常時の家庭学習時間の確保が難しい状況である。授業の理解を促すことで改善を図りたい。</p> <p>新しい学校のコンセプトに合わせ、新教育課程の編成を進めている。早い時期での実現に向け進捗させていきたい。</p>	教務
		<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業の実施率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒 92.3% ・保護者 88.4% 	<p>A</p>	<p>達成できたと思う。各教科に合った様々なITツールを使用していることが分かり、これからは生成AIも導入されたので活用していきたい。</p>	情報
		<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的対話的で深い学びの実現に結び付く授業改善に取り組んでいる」職員評価90%以上 ・新課程における適切な観点別評価の実施100% ・授業公開週間を年2回以上実施 ・生徒による授業改善のためのアンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的対話的で深い学びの実現に結び付く授業改善に取り組んでいる」職員評価88.4% ・観点別評価の見直しが終わった。 ・授業研修週間を1、2学期に1回ずつ実施した ・生徒による授業改善のためのアンケートを1、2学期に1回ずつ実施した 	<p>A</p>	<p>生徒評価は、92.3%のため、良好だと考える。</p> <p>新しい評価基準が完成し、教員の理解が進んだ。</p> <p>授業参観率がなかなか伸びない。先生方に負担なく、授業参観ができるための方策を考えていきたい。</p> <p>印象に残った授業を記述する欄を設けた。生徒の授業への受け止め方を把握することができ、授業改善につながる有意義な取り組みであった。</p>	図書研修
		<ul style="list-style-type: none"> ・充実した探究学習の実施 ・充実した内容の実施に向けての検討委員会の実施5回 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・3年生は新しい内容の探究学習に取り組むことができた。 ・総合的な探究の時間推進委員会を1回しか行うことができなかった。 	<p>A</p> <p>B</p>	<p>生徒がより自分事として捉えやすい内容とした。以前より課題への関心を高めることができた。</p> <p>委員会は1回しか実施できなかったが、1・3年生は新しい内容の探究活動を実施することができた。</p>	図書研修

様式第3号

ウ	学んだ知識や技能を実際に活用した実践的商業教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・対外的な商業活動 20 名以上 ・3 年の課題研究発表会の実施 ・商業科 2 級以上取得 95%以上、1 級 3 種目以上取得 20%以上 ・「授業等で実践的な取組ができた」と答える生徒 70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・富士宮市と連携したネパールの学生と GoogleMeet で交流。商工会議所で企業研究発表。ビジネス基礎の分校の授業参加など 90 名以上の生徒が対外的活動を実施 ・3 年生の課題研究発表会の実施により令和 7 年度課題研究発表会への本校代表を決めた。 ・商業科 2 級以上 73 / 76 人 96% ・1 級 3 種目以上 13 / 76 人 17% (令和 8 年 1 月 8 日 現在) これから 1 月に 簿記・情報処理 2 月に商業経済検定実施 ・「授業等で実践的な取組み」生徒肯定評価 65 / 76 86% (令和 5 年入学生) 	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>対外的な活動や発表に向けた活動を通して、持続可能な取組や商業の見方、考え方を養うことができた。</p> <p>次年度に向けて充実させたい。</p> <p>充実した課題研究発表会が実施できた。代表班は県商業教育研究会の課題研究発表大会（動画提出）に参加した。</p> <p>積極的に各種検定に挑戦し、合格する生徒が多く、学習の成果が合格率に反映された。しかし 3 名の生徒が 2 級以上に合格できなかった。</p> <p>8 割の生徒が「実践的な取組ができた」と実感する授業を実践した。</p>	商業
		<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材による講演会の実施 ・商業科体験入学会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・弁理士による知的財産権講座。税理士による租税教室。第一テレビアナウンサーによるキャリア講演会実施。 ・商業科体験入学会では簿記とマーケティングの講座で体験授業を実施 	<p>A</p>	<p>外部講師や富士宮市と連携した活動を通して、生徒の思考力を深めることができた。外部講師との連携方法は課題である。</p> <p>中学生・保護者に商業科の魅力について周知できた。</p>	商業
エ	自己理解・目的意識を高め、系統的な指導を通して個に応じた進路実現を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・校外模試偏差値 50 以上が 1・2 年で 20 人以上、3 年で 10 人以上 ・「北高は生徒一人一人に応じて、計画的な進路指導が行われている。」生徒肯定評価 90%以上、保護者肯定評価 80%以上 ・「進路決定先満足度」3 年生肯定評価 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・11 月進研 (3 年) 5 教科マーク 8 人 ・9 月進研 (3 年) 5 教科マーク 5 人 ・6 月進研 (3 年) 5 教科マーク 8 人 ・生徒肯定評価 88%以上、保護者肯定評価 84% ・「進路決定先満足度」3 年生肯定評価 96% 	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>3 教科に絞れば 50 以上が 20 人以上いるが、5 教科になると 10 人 (19 人中) に届かない。それでも過年度よりは上位層が多い。</p> <p>目標値に届いていないので、早期の面談や、試験直前の迅速な対応もあり、生徒個人の希望に合った進路を実現できた。</p> <p>進路未定者が 10%以上いるため、96%は多すぎる。</p>	進路

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路意識を向上させるため、学期に2回以上自らの行動を記録させ、学期に1回程度内容を振り返ることで、その後の行動が主体的で意識的になること ・「学びの基礎診断」としての測定ツールを活用し、学年等で検討会を実施し、進路指導に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・志望理由書や自己PRなどを通して自身の特徴を理解できた。 ・年度初めに「スタディーサポート」を実施し、その後振り返りを実施した。 	<p>A</p> <p>B</p>	<p>推薦試験や総合型選抜での合格率を上げるために、個別指導における教員同士の横のつながりを強くしていきたい。</p> <p>学年職員全体で生徒全体の状況把握は難しいため、担任に任せてしまう部分が多い。</p>	進路
		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい入試に対する情報を収集し、その結果を生徒に伝える機会を学期1回程度持つことで、生徒と教員の情報共有ができること 	<p>昨年度から「情報Ⅰ」が共通テストに加わったが、担当教員が少ないため、指導方法は定着できていない。しかし、多くの教員の協力により、来年につながる指導の見通しは立ったと思う。</p>	<p>A</p>	<p>入試に向けた進路課計画を確固たるものにしていきたい。</p>	進路
オ	<p>多様な活動への参加を通して、自己有用感・達成感、豊かな人間性、共生意識、社会的資質・能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「充実した部活動により人間性が高められた」と答える生徒85%以上 ・ボランティア活動に参加40%以上 ・生徒会を中心としたボランティアの参加4回以上 ・よりよい学校づくりや校則の見直し等に、生徒が積極的に参画する経験を通して、物事が成就する過程を経験させ、自己肯定感の高揚を図る。 ・生徒会の生徒を中心としたランチミーティングの実施…年間10回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒 91.8%(+2.8%) ・生徒 46.7%(-0.3%) ・生徒会主催ボランティア5回実施。40名以上が参加。 ・ランチミーティング7回実施。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>新しい動きが始まる来年度、状況を把握しながら更なる充実を図っていく。</p> <p>もっと多くの生徒が参加するよう促していく。</p> <p>地域との共生意識が育った。マイコーデウィークの実践をもとに校則を考えることなど、自主的行動が見られた。継続して取り組む必要性が高い。</p>	生徒

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書を時間通り始めているクラス 100% ・奨励図書の生徒公募、ビブリオバトル活動の継続 ・図書貸出全校で 1,000 冊以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は 94.7%、保護者は 93.5%と回答しているため、おおむね良好である。 ・ブックフェア、図書購入、読書週間を行った。ビブリオバトルの取り組みは良好である。 ・図書貸出冊数は、全校で 601 冊だった。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>生徒・教員ともに朝読書の時間が確保され、読書を楽しむ雰囲気が定着している。「読書県しずおか」を受賞することができた。今後も精力的な活動をしていきたい。図書貸出冊数は目標には届かなかったが、放課後の来館者数は昨年度より約 40 人増加した。来館者数の増加を貸出数の向上につなげられるようにしたい。</p>	図書研修
		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は清掃や整頓がきちんと行われていてキレイである」職員評価 60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員評価 48.8%であった。 	C	<p>本年度も達成することができなかった。委員会等を使い、清掃点検を行っていく。</p>	保健
		<ul style="list-style-type: none"> ・富士宮分校生徒とのプランターの植栽活動の実践（年 1 回以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実施することができた。 	A	<p>日程調整が難航するが引き続き継続していきたい。</p>	保健
		<ul style="list-style-type: none"> ・分校との交流 20 回以上 ・富士宮分校生徒とのプランターの植栽活動の実践（年 1 回以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・分校との交流 20 回以上を達成できた。さらに分校職員との合同研修会や新規で生徒会のランチ交流「みやラン」を行えた。富士宮分校の交流は、北嶺祭・体育の部、庭園・美化委員会による植栽作業、一年部生徒の交流等を、20 回以上行うことができた。 	A	<p>今年度の交流に加え、来年度は商業科の授業（ビジネス基礎）において交流を行う。また、「みやラン」の拡大を計画中である。</p>	共生共育
カ	外部諸機関・地域との連携や積極的な広報活動を通して、開かれた学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員向け校内研修 2 回以上 ・生徒の地域防災参加 50%以上 ・「防災訓練等で生徒の防災に対する意識が高まっている」生徒評価 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向けに、マンホールトイレの組立など、防災研修を 2 回行った。 ・呼びかけを強化したが、インフルエンザの影響もあり、生徒の地域防災参加率は昨年度とほぼ同程度の 32%だった。 ・「防災訓練等で生徒の防災意識が高まっている」が生徒 89%、保護者 85%、職員 87%であった。 	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な研修を継続する。 ・地域防災に対する生徒の意識を高めるため、更に工夫が必要である。 ・新校舎からの避難経路を確認して、防災訓練をしっかりと行うことができた。 ・防災頭巾の着用も概ね達成できた。呼びかけを継続する。 	総務

様式第3号

	<ul style="list-style-type: none"> 適切な時期の迅速なホームページの更新 インスタグラムによるタイムリーな配信 P T A、学校後援会及び同窓会との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの年度更新、及び目次や内容の更新も随時、迅速に行った。学期ごとにアクセス数をまとめて提示した。 「地域や保護者に積極的に情報発信している」が保護者89%と大幅に伸びた。教員は95%。 タイムリーな配信を大量に行うことができた。1月15日現在、投稿数714件、フォロワー1892人である。 クラスや部活などに担当を割り振ることによって、学校全体の活動状況や生徒の笑顔を発信することができた。 「本校のP T Aは活発である」が保護者95.2%と更に伸びた。 P T A役員会が円滑に進んだ。P T Aの各委員会が活発に活動し、奉仕作業等の行事も盛大に実施された。 後援会や同窓会との連携及び見直しを進めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 12月末までの表示回数は約21万4千回、アクティブユーザは約4万4千人である。 内容更新を継続的に進め、迅速かつ正確な情報提供を行う。 昨年度から始めたインスタグラムがしっかりと定着した。タイムリーかつ笑顔のあふれる記事を継続的に発信する。 P T A活動の活性化を更に進める。 P T A、学校後援会、同窓会との連携を更に進める。 	総務
	<ul style="list-style-type: none"> 一日体験入学アンケート、満足度80%以上 魅力的な体験入学および公開授業の実施 効果的な広報資料の作成と中学校訪問年3回実施による志願者の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生 98% 保護者 96% 簿記・マーケティングの体験授業実施 中学生満足度 95.5% 中学校説明会の実施年間8校実施。その他の中学校訪問は地域内全校に回った。 	A	<p>満足度は非常に高かった。日課調整も上手にはたらき、部活動見学まで充実して実施できた。</p> <p>商業科の体験授業で本校の授業の魅力を伝えられている。マーケティングの授業に変更し新たな魅力を創出することができた。</p> <p>中学校説明会は重要な広報の場である。誰が説明に行っても同じ内容で説明ができる体制を作ることが課題。</p>	教務
キ	<p>教育活動を推進していくために必要な校内研修を実施し、教員の資質向上を図</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研修参加95%以上、満足度80%以上 事例研究、グループ研修を年3回以上実施 校外研修の報告することで情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修参加、満足度ともに目標を達成している。 チーム研修を4回実施した。 かえつ有明高等学校の視察報告を実施した。 	A	<p>今後も教員のニーズに応え、教育実践に活かせる研修を継続的に実施していく。</p> <p>年次研修の教員が、それぞれの課題意識に基づいて選択したテーマについて協議することができ、有意義な研修であった。</p> <p>県外視察は1回のみであったが、内容は興味深かった。</p>	図書研修

様式第3号

	り、安全で信頼される学校づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス委員会を年3回開催し、職場環境や教職員の勤務状況を把握して適切に対応 ・コンプライアンス通信を配布し注意喚起 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス委員会年3回実施した。 ・毎月、コンプライアンス研修を実施し、教職員の不祥事はなかった。 	A	今年度は不祥事がなかった。次年度以降もこの状態を維持したい。	コンプライアンス委
		<ul style="list-style-type: none"> ・各教室への消毒設置100% ・感染症・熱中症の注意喚起を年3回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教室に設置することができた。 ・計画通り実施することができた。 	A B	設置はしてあるが、活用にはクラスで差がある。有効活用する方法を考えていきたい。感染症については、インフルエンザの感染拡大が見られたので、教室や部室での過ごし方について改善できるよう、啓発していく。	保健
		<ul style="list-style-type: none"> ・監査等における指摘事項0件 ・令達予算の見込みを含む第3四半期執行率85%以上 ・施設設備安全点検月1回以上により、施設設備の不備に起因する事故発生件数0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・例月会計検査、会計指導検査、物品指導検査、公有財産調査及び監査（財務）における指摘事項はなかった。 ・見通しを含めておおよそ達成できた。 ・事故発生件数は0件を達成できた。全般的な安全点検は担当による1回しかできなかった。 	A A B	軽微な修正を要する点や、誤りに自ら気づいて修正した点はあるため、事務職員相互にチェックをしつつ、引き続き迅速かつ正確な事務処理を行う。厳しい予算状況の中、職員へ呼びかけるなど、細やかに対応できた。部分的な点検は連絡があった都度迅速に対応できている。日常的に点検する意識を持ち、破損個所の迅速な対応を継続して努めていく。	事務
ク	教職員の多忙化解消に向け、「業務改善」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックの結果が県平均より良好 ・職員会議は協議事項の意見交換を主として、連絡事項は分かりやすい資料の配布で簡略化 ・業務のデータを活用した効率的な業務の実施、次の担当者のために業務のマニュアル化 ・定期テスト監督の平準化 ・職員の完全退庁時間を設定 ・時間外勤務時間が昨年度比-5%を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね県平均と同じ結果 ・運営委員会や職員会議の資料のデジタル化を進めた。また発言内容の要約等を依頼し、会議時間が短縮された。 ・学級閉鎖の判断ガイドラインなど、従来時間がかかっていた内容をマニュアル化した。 ・教務課でテスト監督の回数等を管理している。 ・20:00完全退庁時間を設定し、掲示した。 ・定時退庁日などに呼びかけを行ったが、昨年度と比較して-0.33%にとどまった。 	A A A A A C	<p>次年度以降も継続。</p> <p>管理職 議論に必要な時間を確保できるようにしたい。</p> <p>マニュアルだけでは対応できない場面もある。臨機応変な対応スキルを教職員が身に着ける必要がある。</p> <p>次年度以降も継続。</p> <p>次年度以降も継続。</p> <p>目標達成には月当たり80時間の削減が必要。全職員が月あたり2時間残業を減らす必要。</p>	管理職